

資料2 PCAF クラウドファンディング挑戦にあたってのメッセージ

川村喜久 PCAF 実行委員会 発起人／役員／事務局長 (一般財団法人川村文化芸術振興財団 理事長)

PCAF は、コロナ禍においても文化芸術の営みを消してはならないとの思いから始まり、そこから、コロナ禍以降の新しい生き方や社会についてアーティストと共に探る試みへと発展しました。さらに今回のクラウドファンディングでは、ご支援を募ることで活動の充実を目指すだけでなく、ご関心をもってくださる人々の輪を広げることで、みなさまと共にこの大切な課題を考えていけたらと願っています。ご賛同いただけるなら、ぜひともご支援をお願いできれば幸いです。

大林剛郎 PCAF 実行委員会 発起人／役員 (株式会社大林組 代表取締役会長)

我々はコロナ禍を通じ、生命を守りながら今後も成長を続けるために、従来の価値観と生活様式を変えることを迫られています。年齢や職業、国籍といった属性を問わず、世界中の人々を広く巻き込みこれまでの生活を再考する今現在の毎日は、歴史上における社会構造の大きな変革点となっています。私自身も職業柄、都市と資源や生態系についてはこれまでも相当な時間をかけて考えてきましたが、コロナ禍を体験し、これまでとは異なったスケールで人間社会の問題をとらえ、考えるようになりました。誰もがこういった問題について考え、考え続けることを求められています。アートワークやアートプロジェクトは我々に、これからの世界を考えるきっかけを与えてくれます。社会に幅広く発信できる力をもっています。PCAF を支援し、アートがこの世界のよりよい未来をつくる一助になれば素晴らしいと感じています。

森 佳子 PCAF 実行委員会 発起人 (森美術館 理事長)

世界中に広がったコロナ禍によって人はこれまでの生活の仕方、生き方、考え方に大きな変化を強いられました。改めて日々の時間の使い方を見直し、仕事の仕方を変え、友人との交わりのありようを変えざるを得なかった中でアートからはどのような発信が出来るのか、アートが果たせる役割は何なのかを考え続けています。アートは常に時代を映しながらか、生きていく上での可能性を広げ、生きていく力を与えてくれます。作品を見ることを通して考えるきっかけを作ってくれます。このような時こそアートから刺激を受け己の感性を磨いていかなければなりません。このたび立ち上がったPCAFの活動に加わり、応援する事によって一緒にアートを楽しみながら新しい世の中を作っていきましょう。

澤 和樹 東京藝術大学 学長

昨年春以来のコロナ禍により、多くの展覧会やイベントが中止となり、活躍の場、発表の場を奪われた芸術家たちは大変な苦境に立たされております。そのような中ではありますが、コロナで疲弊した社会構造を芸術の力で新たな道筋を提起してゆかねばなりません。歴史的に見ても、奈良時代の天然痘大流行の後の天平文化、また中世ペスト大流行の後にルネッサンスが開いたように、パンデミックの後こそ、芸術は必要とされています。天平文化には聖武天皇の庇護が、そしてルネッサンスにはメディチ家のようなパトロンが存在が不可欠であったように、今こそ、このポスト・コロナ・アーツ・ファンドは必要とされています。芸術家たちが新しい時代への強いメッセージを発信できる取り組みを東京藝大としても、皆様とご一緒に推進してまいりたいと思います。クラウドファンディングで一人でも多くの皆様方からのご支援を若き芸術家たちに届けてまいりたいと思います。今後も全国芸術系大学コンソーシアムのホスト校という立場で、東京藝大の学生や卒業生に限らず、この活動を幅広く広げてまいりたいと思います。